



新編水滸畫傳
三編
六

~ 21
875
26



門遠 875 卷 26

神書佛書醫書國史子
繪本年中新古賣道
手遊いろく法存の間
河内屋孫云衛

後醍醐三休橋西八
河内屋孫云衛

新編水滸画傳卷之貳拾六

東武 高井蘭山翁

譯編

明治三十年 七月十日 講求

○施恩義とめて快活林と棄る

時、松の流人、又く相集りて、武松に問て、云、下へ流人の書簡と持来し。管管に呈げぬひぬるや。武松が云、我者て書簡と持来せし。流人皆云、是れ我と殺まや。流人、ホウ云、今宵汝と土牢の内、小引入て殺さるべし。武松云、既にかくのごとくんば、是れ別我が天命と。いま云も、ろらざるに一人の奴僕、子小大ひある。盒子と持て、入乃ち呼つて云、る。新來の流人の雅、子と云、武松答て云、新來の流人の我之汝、我と云て、何の事ありや。彼下友云、管管相公、我小

命じ汝に酒食と煮むるふとて彼盒子と武松小入られぬ。武松これと
 て肉と果して一籠の酒一盤の肉一盤の麪わり。武松嘗に思ひるはん我
 小酒食と吃せりて。後殺さんと云事さうん。遮莫何ぞ是と我ひさ
 や。時と移る酒食そく用ひ罷し。彼家僕自ら是と收めて飯なり。
 武松は独房間の肉小在て。冷笑ひ忠道被奪めり。我と殺せらん。
 我嘗く是と飲んとも。暫く消息とね侍るに。日も漸黄昏小むて。又彼
 先に酒食と携へ来り。家僕再び一ツ盒子と持て入し。武松これ小言て
 云汝又来るいん。彼下友云。管管お公の命と受て。晩飯と送り来り。とて
 自ら盒子と開て。武松小入。武松これと。一籠の飯。一籠の酒。一盤の肉。一盤
 の魚。わり。武松心中に思ひるは。飯と食し。終る。必死我と嘗に。須く
 是とも食し。はく死に就んとも。片時のるに。又是と吃し。られ。彼家僕嘗て

ろて。回り。後。時。斗。と。さ。く。彼。家。僕。又。一。人。漢。子。と。引。て。一。桶。の。湯。と。携。
 来。り。武。松。是。と。ん。て。何。と。と。言。ふ。ん。と。思。ひ。る。に。彼。下。僕。が。云。わ。れ。
 一。更。武。松。又。思。く。我。小。浴。せ。り。て。殺。さん。と。計。ら。ぬ。是。又。待。す。と。云。ふ。
 乃。ら。湯。と。把。て。洗。ご。られ。ぬ。彼。家。僕。の。家。僕。再び。桶。と。携。し。て。来。り。武。松。以。時。食。
 門。と。実。し。と。思。ひ。る。は。我。小。湯。と。手。へ。て。沐浴。さ。す。め。る。は。い。う。言。謂。と。と。て。遂。に
 床。の。上。に。赤。針。乃。知。に。夜。も。も。明。て。雞。犬。の。聲。に。方。に。吠。へ。し。武。松。遂。に
 起。て。房。間。の。門。と。実。し。知。小。又。彼。家。僕。を。人。待。詔。と。引。て。馳。馬。り。乃。武。松。が。聲。
 と。梳。せ。又。多。くの。飲。食。と。携。来。り。武。松。小。用。し。め。られ。ぬ。武。松。中。小。忠。道。
 今日。ハ。必。定。我。命。終。る。只。宣。く。彼。家。僕。乃。小。使。来。し。と。云。ふ。も。強。は。飽。き。
 食。り。ぬ。亦。に。又。一。人。の。家。僕。来。り。武。松。と。言。て。云。乃。ハ。房。間。ハ。對。文。不。自。由。
 乃。之。を。取。り。房。間。と。換。へ。る。べ。し。の。よ。う。管。管。相。公。命。じ。有。り。に。我。小。隨。

てあり武松を暗に思ひたる。今日我と後で房間と換うしむる。必ず去
 牢の内に移して命を害せんとの事。我且彼小随ひ行てこれと成す。と
 乃ち包袱蘊と彼家僕に持しめ。遂小下友と共に房間と出て。この如に
 彼僕門と推宕て武松と入し。武松は靴を脱ぎに靴し。床を昇り
 衣に往んとも思ひつふ。びのく。若き衣に邀へる。と。偏にそを
 とて只顧躊躇として。時已に日中にや。し。知れ。又そ人の家僕
 食とて更て武松小せむ。武松是と見て。益奇吳の思ひと成し。乃ち
 と笑して酒食を食し。う。暫く坐と安んじて。飛る如に。彼家僕又來り
 武松に沐浴させしめ。再三懇勸小せらる。於此宣く。そ。と。安ん
 歌。武松密小せひる。法の流人。亦我と去牢の内に引入。殺害す。

る人と若るふ。何れも却て我とかく。款待や。を奇怪の工と。そ。我ハ
 歌り。そ。翌日又彼家僕酒食と送り來り。奉日の。武松例の。食
 一。早。獨自。管外と奔。走して。比辺とる。に。法の流人。亦我ハ水と
 或ハ。榮と。勝を。外と。雑。事と。後。も。多。り。乃。ち。皆。比。六。月。の。炎。日
 小。晒。され。て。事。と。做。や。流。人。亦。若。て。云。嘉。傑。汝。ハ。新。糸。の。人。な。れ。比。管。中。の。と
 と。知。り。有。す。我。事。以。而。小。在。て。事。と。る。是。別。ち。人。乃。の。天。上。を。り。何。ぞ。事
 比。管。中。と。嫌。ん。や。彼。納。給。と。送。ら。る。流。人。亦。若。て。土。牢。の。内。小。在。て。生。と。求
 れ。も。生。と。成。む。死。と。求。れ。も。死。と。成。む。若。し。と。云。乃。ち。千。り。て。を。所。に。居
 比。べ。う。我。亦。若。彼。木。に。比。せ。雲。泥。の。差。あり。武。松。是。と。笑。り。て。又。天。王。堂。の
 最。後。と。鏡。り。比。辺。と。る。乃。ち。石。ハ。刻。ち。天。王。の。旌。と。插。る。り。



武松投
大石
示
加

竹編火許書傳卷之二



新編又信書傳卷之二

約莫に八百疋の奇きもろし武松公とめて先と一見、母の房間の内に臥て
 坐し、又彼家僕酒食と持て来て武松に食し、武松熱く思ふに、此
 中に我と書せん、一点も見えぬ、必定縁故なり、我先に家僕に書故と官
 下と乃ち下友に對して官下、誰が家の名をたれ、只願酒食とて我と
 款待や、官下く縁故とて、我小使せ、彼下友が先日も已に初次小若
 かせに何ぞとある、わいのめや、我は是管某相公の家より、初毎日酒食と
 送り、武松公已にけのこ、人け酒食、定く管某相公の命と奉つて送り
 せん、彼下友が是は、流して相公の子息、小管某の命小使て送り、武松が
 云我は是罪と犯し、流人として、一点の功なきに、何ゆゑ我小酒食とある
 中よりや、彼下友が我も縁故、知されども、小管某の言ふ、且昨年
 冬より、酒食と送り、初次にふくべし、もの、武松公、け、必定、且我と

養ひて、胖う、め、後我首と、刺身とす、くに割、擅に己が刀の鋼と、鉄ん
 云と、さうんけ、酒食を、用さ、され、我いん、ぞ、れ、と、食し、と、香、頼、さ、ん、や、折、ん
 小管某と云い、さう、操、松の、人、も、わ、我、い、ま、對、面、せ、る、に、彼、人、我、と、知、れ、る、い
 はん、家、僕、が、云、初、次、日、始、て、來、り、由、い、し、時、管、某、相、公、の、耳、に、附、て、低、云、れ、る
 彼、後、せ、人、乃、ち、是、小、管、某、之、武、松、云、彼、日、既、に、子、巾、と、捲、身、に、紗、服、と、着、
 し、る、人、管、某、が、身、辺、小、近、つ、ひ、て、何、ぞ、や、ん、低、云、る、が、定、て、以、人、の、と、さ、う、ん、
 家、僕、が、云、さ、ん、人、別、管、某、相、公、の、子、息、と、武、松、云、我、彼、日、已、に、殺、威、持、と、信、
 ん、と、し、る、如、に、彼、人、管、某、小、向、て、低、云、る、由、急、管、某、別、殺、威、持、と、見、さ、れ、ぬ、是、正
 し、く、被、人、我、と、救、ひ、し、る、疑、ひ、さ、ず、家、僕、が、云、初、次、日、始、て、初、り、ぬ、め、や、さ、り、小
 管、某、が、既、と、救、ひ、し、る、れ、ど、ん、の、初、次、日、痛、く、お、れ、さ、ひ、て、今、時、分、の、死、生、も、不、定、な、る
 ら、ん、武、松、が、云、小、管、某、我、と、救、れ、る、由、も、偏、に、曉、し、じ、我、は、是、清、河、縣、の、若、し

一と彼は孟州の人なれ。素より。知者小あつた。いんぞ十を我と憐れむ。あひ
 中は必以縁故ぞめ。ん我且汝小同ん。彼小管管の姓名いんぞ。あ家僕が
 云小管管の姓は龍名。恩も。むよく。武藝と熟練され。ゆゑ。人皆合眼。彪
 施恩と称せり。武松と号て。志ひる。管管已小かくの。ご。武藝と若せ。必ず
 是豪傑なる。我且彼小対面して。言虚実と伝んと。別又家僕小対して。云
 る。汝若小管管と。邀へ来て。我小遇し。め。我乃ら。以酒食と食す。し。り。汝
 邀へ来。ずん。我交し。と。一息も食す。ま。そ。〜。汝速に向て。小管管と。延て
 来。是家僕。云。小管管。我小命し。や。され。汝必ず。我酒食と送る。こと。能
 取小若知。せ。と。と。る。れ。並に。半。管。年。も。五。あ。我相見。を。後。信。と。こと。と
 わり。と。云。おひ。ぬ。ゆ。我今小管管と。邀へ来。ん。と。直心。以。能。ふ。べ。う。だ。武
 松。云。汝。妾。の。ま。と。い。ん。ら。あ。く。邀へ来。て。我小遇し。め。ゆ。彼家僕。能。手

して交せざりし。武松。初。大に。焦燥。て。汝。り。い。よく。小管管と。邀へ来。し
 ぞん。我決して。以酒食と。吃す。ま。と。と。遂小酒食と。把て。還し。ら。ん。家僕
 止。と。せ。ぬ。ず。して。於て。施恩。小。次。身。と。若。邀へ。ら。れ。施恩。来。て。は。武松。と。見。て
 ね。と。や。ぬ。武松。忙し。〜。ね。と。還して。云。ら。る。バ。未。に。犯。科。の。流。入。し。て。未。だ。あ。り
 ぞん。於。も。ね。せ。ざ。ら。れ。亦。月。も。已。に。救。ひ。と。義。教。威。持。と。脱。れ。射。小。酒。食。と。送。て
 款待。あ。り。こと。と。未。だ。あ。り。と。交。が。じ。し。夫。難。ぶ。も。功。を。食。ハ。さ。る。と。い。り。
 い。ん。や。未。だ。あ。り。の。功。な。り。して。量。あり。に。小管管。の。祿。と。費。し。や。ん。や。あ。り
 永。く。酒。食。と。惠。む。ゆ。未。だ。あ。り。と。寸。志。と。安。ん。ず。の。暇。あ。り。ま。だ。施恩。若。て。云。
 未。だ。あ。り。〜。於。此。の。大。名。と。呼。て。雷。の。耳。に。轟。く。さ。う。と。い。ふ。只。堪。〜。ハ。山
 川。遠。に。隔。る。未。だ。あ。り。と。接。せ。ら。り。り。今日。若。ひ。於。此。に。石。に。刻。り。お。り。〜。と。云。
 理。心。に。不。迷。威。教。と。ね。は。〜。と。知。れ。何。の。款。待。も。若。さ。り。ゆ。未。だ。あ。り。と。云。

愧て相見自ら延引に及びぬ歎くは功我が罪と免く可敷松が今
 彼が僕小官ひるの半善年と過おひ方に余小遇て脱活しぬん
 と云ひぬる者なるが、は、何等のことと示しぬや、施恩がい
 る被残さず
 めてありに言せや、ぬ、余何ぞあてかくの如きことや、
 菅斯言と秀して。人を疑いぬ有る、この豪傑の、
 秀才小が要と内へ於く、迷ひ今我小若人、施恩が
 と功我に告ぬ上、我今心事と演すべし、乃ち功我
 の豪傑なる由、我敢て一つのと、功我に、
 他人の能く、よとに、功我に、
 氣力も疲れおひつんと、衆一、由、
 と、氣力余、

我松をば、つと、お、小、
 系湯屋の上と、而も大酒の陣中、
 病系も、系力十、
 今、
 尚、
 事、
 我、
 れ、
 言、
 若、
 め、

管業が武松を引てありぬと見て早く身と躬めて礼を祈ひし武松已に石
 の筋小舟を被ふと一揺揺て云々（筋小舟を被ふと一揺揺て云々）筋小舟を被れらるやけしと持人（筋小舟を被れらるやけしと持人）能く
 ばし施恩が云は石系束に二百竹の重き五りばいんぞ能く（筋小舟を被れらるやけしと持人）持しと城んや
 武松ううくと大いふ笑て云小管業我今持んと結（筋小舟を被れらるやけしと持人）まうと云ぬと怪しむ
 よも我実これと持てき階下入中え儀によろて好まうとそ乃ち双の袖と捲
 起て再び石の筋に走り倚遂小石を丸て眠りもく扛上唯一電に地上撲
 着し（筋小舟を被れらるやけしと持人）大に寄ひて一尺餘の地の内に歩入れたり徳人は是れ見く大に驚き
 氣皆去と揮ふ許之武松又之併て被ふと怪し引扱と再びを帯んで
 電上し六地上を離れて一文餘の空に已に落ると武松双もよてこれと接
 極くと糸の取に居る別段と聞くと施恩并に流人の流人どもは向て何と
 嘆ひるに面の長少しも愛せぬ胸の久し脚も跳らさる（筋小舟を被れらるやけしと持人）施恩られ見えて忙し

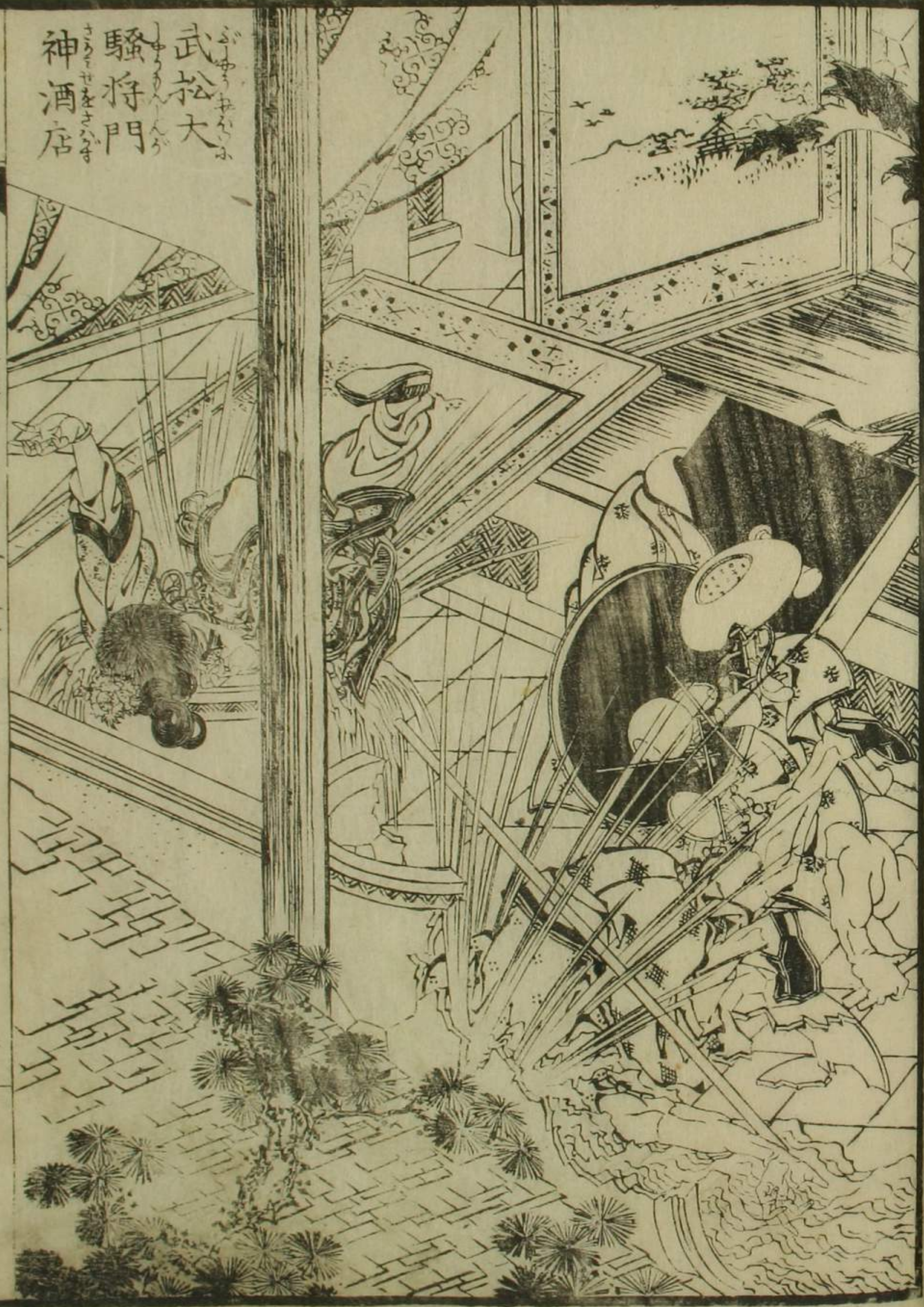
一々地上に抱伏して云々（筋小舟を被れらるやけしと持人）凡人は凡人もあり乃ちまの天神之流の流
 人をも一齊に抱て去りて云々の筋の勇力人倫のう及ぶ（筋小舟を被れらるやけしと持人）如くありこれ
 必ず上天の神祇格に成化して下界に降りぬむ（筋小舟を被れらるやけしと持人）彰し強に希ふの英
 雄うまに前皆奇兵の思ひせり（筋小舟を被れらるやけしと持人）當時施恩并に武松とをよて私室海
 坐らに堂上（筋小舟を被れらるやけしと持人）坐已に定りし武松先施恩小對して云小管業已に我力
 と見寄ひ上六堂（筋小舟を被れらるやけしと持人）我小を事と若て急にけい更施恩が云筋先實座て
 存る（筋小舟を被れらるやけしと持人）我自ら我父を邀へきて筋と對面をうめ其上めて事と明る（筋小舟を被れらるやけしと持人）若
 筋と我と也武松が云小管業縦ひ何れの大事をや（筋小舟を被れらるやけしと持人）何れを再と選
 難ふ及ひや小也是却と事と傲の意を小わ（筋小舟を被れらるやけしと持人）た人と殺し大と殺つ（筋小舟を被れらるやけしと持人）と
 芥菜めて小管業のたられとる（筋小舟を被れらるやけしと持人）せしむと殺すことわしは是文支小わ
 ぶる（筋小舟を被れらるやけしと持人）唯よあしく意と交して（筋小舟を被れらるやけしと持人）よく告げせぬ施恩が云芥菜めて筋の意

小待くとありんや。少停車と唄くは若くは先哲く心と寛げて茶と角
 ひやとを別家入ふ命と。佳茗とを進めり。或松已に茶を吃し。早て云なる
 八小管受速に事と。伴に況て茶に告知せり。施恩若くは茶飲て事と。若
 中えにこれと唄く。茶初るき時より。祥多の師に後て。或藝と傳へり。四各
 孟州の人皆茶に諱名と附て。金眼彪施恩と稱し。中と扱高城の東門の
 外に二の里あり。地名と枝活林と号して。山東河水の商人等。在外多し。此
 枝活林小來て。賣買とあり。此に百十餘所の客を有て。二千餘所の
 猪坊あり。茶向ふは枝活林の内に。酒店と宿の營となり。而は彼地の民
 人。茶を或獲て。蓄んで。法の客を猪坊より。毎月錢と湊り。茶に送り
 たり。一管月小納莫二三支の限あり。れば茶も又流く。是と感し。是里
 の内小盜賊。碎漢の徒。若くは居民と犯さんとする。時ハ茶親自ら八九人の流人

せと引し。屢これと治め。其を事と憫り。彼に商官の張固。練氣に。東路州の
 身。子るる一人の力士と從て。は知に。或は。力士が姓ハ蔣名ハ忠と号し。身の長九尺
 餘あり。或は。力人小。論より。或は。人皆。諱名と附て。蔣門神と。呼。慣。若くは。吐。身
 材長大。うして。力を。別強の。も。又。能。強。と。利。持。と。使。就。中。相。撲。ハ。比
 較。る。と。違。人。之。自。ら。誇。て。大。云。と。吐。三。年。を。獄。小。於。て。角。力。と。交。り。し。も。對。し
 にかる。一人も。なり。普。天。下。我。が。此。相。撲。ハ。何。と。これ。わ。じ。と。大。ひ。に。勢。ひ。と。振。い
 擅に。我。が。商。賣。と。奪。せん。と。り。る。由。茶。肯。て。是。と。讓。り。遂。に。は。柳。と。交。闘
 ひ。る。茶。彼。が。働。き。に。少。例。を。合。身。大。に。傷。み。て。凡。三。五。月。餘。り。平。復。せ。ぬ。し
 て。茶。小。外。ぬ。茶。日。於。初。て。或。り。や。ひ。ぬ。時。も。於。茶。が。痛。み。乃。ち。子。中。と。用。て
 此。と。包。み。漸。く。廳。上。に。出。て。於。此。の。苦。難。と。報。し。ぬ。今。に。至。て。も。亦。傷。れ。る。痕。時。々
 再。發。し。て。身。心。苦。る。之。我。が。大。將。と。傳。し。ば。仇。と。報。して。恨。と。重。ん。と。思。ひ。し。る。も。

武松大
驍將門
神酒店

新編水滸傳卷之二十六



酒肉色慾

新編水滸傳卷之二十六



張國練が一身の志を我が人数に十倍して多き加是まづ一臂ひ致すべし能は
 只流に時日と過して恨骨髄に徹れり。素来未だ此の猛威を及びぬ
 由是這回奪ひ取らんと欲せば仇と報せん。此の如く肯て我に恨を帯て
 しかば。いふ身と強きまき。あつとあまた。素暗に思ひらるる。此の如く遠道を行
 経て。尚堪ふあり。いふと。されば。必定。素力も。疲れ。ぬ。わ。ぬ。と。あ。ん。ん。先。軍。一。本
 年。休。息。を。さ。し。め。あ。り。せ。ま。後。素。力。は。倍。と。す。り。方。に。い。と。と。告。高。濃。と。ん。と
 思ひ。多。に。家。僕。保。て。幸。と。蒙。り。る。由。是。已。と。と。言。ふ。意。に。今。実。事。を。告。中。に。武。松。は
 と。つ。て。呵。く。と。大。小。喚。て。云。那。將。門。神。は。後。の。現。み。を。發。せ。し。の。臂。を。や。施。恩
 云。只。是。一。の。臂。二。の。臂。の。の。い。ん。ぞ。許。多。の。臂。を。ん。や。武。松。益。大。小。笑。て。云。我。は。只
 三。段。六。臂。の。人。な。る。ん。と。こ。を。思。ひ。つ。に。元。是。一。の。臂。二。の。臂。の。の。さ。ら。に。何。ぞ。是
 一。も。恐。ろ。不。わ。ん。や。施。恩。り。云。素。来。素。力。為。す。と。武。松。休。息。を。蒙。り。被。不。敬。す。と。能。い

ざる。武松を我自誇言と云にわづれども我が胸中の武藝は天下の無
 人な徳に明らざるもの。是を傷めし彼將門神かくのどく罪なせ
 けのさるる。匡く今速に死せんとせん。小管。素。来。と。引。て。往。來。素。來。彼。虎。を。殺。せ。し
 勢。と。奮。て。彼。と。只。一。歩。小。歩。殺。し。我。自。命。と。僕。の。何。ぞ。別。に。を。意。す
 不。わ。ん。や。施。恩。が。云。此。の。如。く。先。家。父。が。出。身。と。侍。て。高。僧。一。定。如。く。ば。明
 日。先。人。と。地。で。將。門。神。が。消。息。を。窺。せ。ま。い。ん。か。に。其。明。後。日。死。行。べ。し。素
 彼。が。に。ま。り。ず。ん。此。日。の。僅。に。い。ふ。に。武。松。は。と。つ。て。大。に。焦。燥。て。云。ら。る。小。管
 素。來。に。お。れ。ぬ。の。に。自。づ。焼。ひ。を。失。ひ。ぬ。て。か。く。ま。り。し。や。大。丈。夫。の。さ。ら
 何。ぞ。再。三。如。子。ま。る。と。わ。ん。や。素。明。の。明。後。日。の。さ。ら。に。事。彼。が。方。に
 曉。ま。り。て。必。死。へ。と。限。を。小。す。す。只。宣。し。く。意。に。之。と。交。し。今。日。事。を。い。ひ
 之。と。契。り。に。ま。り。り。

○施恩手て孟州乃に覇あり

小管景武松と商嶽半身知に忽ち房周の背後より。老管景走りおて
 呼りけり。豪傑の曰ひ。我一人は是を呼り。今自我が忠男忠女に豪傑小
 お遇ふ。恰も雲と披て日と見らる。正に先後堂小移て商嶽と遂よりと
 て武松と処て後堂小移り。再三言れ。武松に譲りて坐せり。武松
 られと解して。云来ハ是科を犯せ。罪人たるに。いんぞめて相公と我と對
 中さん。老管景が。豪傑必ぶらる。謙退し。わんご。我が忠男豪傑小
 對面と遂より。十分の孝ひられ。我を飲囉小猪は。唯より。坐とある。ど
 て後活し。夜とて。再三おりに。信られ。武松解き。後遂に。席と對
 て坐し。られ。施恩ハ。手次に。危と定めり。我僕や。と。酒肴と具へて。掛
 知に。老管景。已に。置と。て。云ら。於。於。見。去の。英雄。あり。我。の。忠。男。を

助け。忠。男。系。收。活。林。に。在。て。買。賣。以。り。多。の。年。資。材。と。食。り。利。と。好。む。に
 め。の。只。只。枝。活。林。と。ま。り。て。盜。賊。碎。漢。ホ。と。追。退。を。名。と。に。方。に。推。ひ。孟。州
 に。一。人。の。豪。傑。あ。る。と。世。の。人。小。知。せん。が。為。之。故。今。將。門。神。擅。に。已。が。猛
 勢。と。振。ひ。出。給。と。忠。男。が。豪。傑。と。奪。ひ。たり。忠。於。於。の。英雄。小。わ。ん。ん。ん
 仇。と。報。し。冤。と。雪。む。と。解。き。り。於。於。の。忠。息。と。棄。る。す。け。孟。と。め。あ。ひ
 て。忠。男。と。義。と。結。び。盟。と。せ。り。忠。男。が。八。好。と。交。り。武。松。君。と。云。来。年。終。く
 學。の。へ。て。考。ぞ。敢。て。小。管。景。の。悔。と。交。り。せん。や。那。れ。と。然。と。然。と。一。と。一。と
 已。に。解。き。と。せ。り。知。に。施。恩。府。と。起。て。武。松。と。八。好。一。義。弟。の。礼。と。行。ひ
 られ。武。松。忙。ハ。一。く。礼。と。還。し。遂。に。兄。弟。の。盟。と。結。び。を。日。八。大。ひ。に。祝。と。酒
 と。酌。已。小。晚。て。宴。終。り。られ。武。松。の。泥。の。ぐ。に。煤。碎。し。そ。後。ハ。先。房。周
 小。飯。で。歌。ミ。り。り。そ。無。日。施。恩。父。子。商。嶽。と。云。武。松。昨。日。と。昏。碎。の

醉るれば必死酒小申り。素方も好まらば。今日いんど事とゆんや。只許て
 云へば。せんきて人とせし。勤律と窺し。のろに將門外。這支日家。以の。明
 日へ必定。酌らん。明朝飯後。小あつく。長兄。敬と引て。建初べし。今日。且
 素力と。素の。ひ。更と。云て。一日。延す。ふ。あ。じ。と。施恩。先。武松。小。び。事。と。演。々
 以。武松。が。云。彼。家。に。わ。ら。う。ふ。の。程。ひ。今。日。乃。も。益。あ。ま。ら。れ。只。明日。往。べし。
 然。れ。が。我。一。刻。も。あ。く。將。門。神。に。遇。つ。と。敬。す。る。と。な。れ。ば。今。日。實。し。く。懐。り。と
 抱。て。さ。す。雅。う。ん。と。遂。に。施。恩。と。さ。り。外。小。奔。走。し。再。び。又。家。に。飯。こ
 宗。侯。と。傳。へ。な。れ。ば。も。日。中。小。あ。り。ぬ。け。時。施。恩。武。松。と。引。て。私。宅。小。あ。り。僅
 二。三。碗。の。酒。と。具。へ。て。武。松。と。敬。待。き。ぬ。て。一。碗。の。酒。も。篩。り。し。く。武。松。に。辨。せ
 且。心。中。敬。び。す。不。速。列。れ。已。が。房。間。小。回。り。り。あ。る。衣。に。あ。人。の。僕。又。酒。肴
 と。携。へ。來。て。武。松。小。進。む。武。松。是。と。乃。に。着。ま。な。れ。も。酒。多。う。な。れ。ば。武。松

乃ち家僕小問て云。小言。今日は何ゆゑか。の。と。酒。少。く。肴。多。く。送。ら。れ。ら。う。や。
 我。偏。小。言。を。曉。し。が。は。は。躑。躑。わ。ら。官。々。我。小。言。を。彼。僕。が。云。今。細。言
 又。父。子。高。議。し。て。中。れ。る。今。日。初。段。と。引。て。快。活。林。に。馳。り。し。思。へ。た。初。段
 定。め。て。昨。夜。の。酒。小。申。り。の。ひ。て。敬。る。ま。が。な。れ。ば。今。日。建。初。て。大。事。と。傳。へ。し。も
 わ。ん。寫。し。明日。の。沙。汰。ふ。す。と。今日。已。に。日。と。延。さ。れ。て。酒。と。送。る。と。多。う
 以。武。松。是。と。夢。心。中。に。冷。笑。ひ。そ。夜。の。事。を。寐。さ。り。り。武。松。翌。朝。未。明。に。起
 て。裝。束。河。洞。へ。独。房。間。の。内。小。坐。し。て。施。恩。が。消。息。と。傳。て。居。々。如。小。施。恩。親
 自。事。て。武。松。と。私。宅。に。邀。へ。持。く。珍。物。と。没。けて。武。松。と。敬。待。合。事。已。小。年。り
 乃。れ。が。施。恩。が。云。長。兄。敬。若。る。に。案。て。行。あ。ら。う。我。家。小。言。ひ。一。疋。の。良。き。あり
 初。ち。今。日。是。と。奉。て。案。し。わ。り。し。武。松。が。云。我。家。路。と。行。て。逢。者。な。れ。何。ぞ
 必。し。も。是。と。用。ん。や。我。只。一。つ。の。手。め。り。小。言。又。肯。て。是。小。後。ひ。あ。らん。や。施。恩。が。云

長兄のそ我何ぞ敢て違えんや。官しく速に示し。又我松お笑て我を此事に
 のほたろ城と出で途中に歸る。六瓶ひ敷く。の酒店をも酒店毎に立併い。
 三碗の酒を飲て過す。小管管のこれ小後ひあすん。這回のと。敵を疑さ。正
 めらん。施恩を。夢て。枝活林の城の東門より十に又里の後をれば。吾間に。亦
 の酒店約莫十三朝も。亦。毎店に立併て三碗の。酒。飲合三十五六碗の酒之。
 長兄已に枝活林に。身。あ。時。い。を。碎。大。に。突。し。前後。せ。是。へ。あ。ま。ま。飲。く。ハ。比。原
 と。休。な。ん。や。武松大に笑て云。小管管。我。り。酒。小。碎。バ。車。成。得。ん。と。思。ひ。あ。よ
 る。我。及。て。酒。を。さ。耐。い。か。か。し。一。石。の。酒。め。れ。ば。一。分。の。力。あ。り。又。分。の。酒。め。れ。時。ハ。又。分。の。力。あ。り。
 十分の酒めれ。又十分の力あり。未向十分の酒を飲て。煉碑し。これ。こ。こ。系。陽。岳
 して。大。石。一。殺。せ。り。若。後。ず。ん。を。い。ん。ど。く。虎。と。殺。す。と。せ。ゆ。ん。や。小。管。管。これ。で。は。て。我
 力の酒小起。上。成。知。り。又。施。恩。を。我。あ。ら。い。え。未。多。く。笑。酒。を。行。へ。し。も。昨日。より

長兄小多。酒と効めざる由。えん。唯。是。長。兄。の。煉。碑。し。ぬ。ひ。て。後。有。事。と。得。る。見
 と。の。思。は。れ。て。長。兄。す。て。に。か。く。の。と。く。酒。の。後。益。力。あ。り。我。兄。二。人。の。家。僕。に。我。家。の
 美酒と持せ途中に。待し。めん。る。長。兄。意。の。ま。に。これ。を。用。ひ。て。枝。活。林。に。往。て。武
 松。云。小。管。管。あ。ら。て。か。く。の。と。く。ん。は。先。刻。我。殺。ひ。の。第一。人。也。蔣。門。神。也。亦。倒
 さん。と。何。の。疑。ひ。の。あ。らん。我。一。酒。を。飲。す。ん。い。ん。ど。能。全。さ。指。せ。ん。や。は。時。施
 恩。主人。の家。僕。に。多。く。酒。肴。を。持。せ。ま。す。途。中。に。殺。し。乃。れ。ば。老。管。管。ハ。暗。に
 健。なる。大。漢。子。二。三。十。人。を。擡。て。出。し。其。後。一。に。従。り。り。て。斬。り。乃。り。扱。小。管。管。ハ
 武松。と。も。ん。平。安。寨。を。離。れ。城。の。東。門。の。外。お。お。終。に。又。百。步。許。馳。り。知。れ。し。
 とも。一。石。の。酒。店。あり。ん。ど。彼。あ。人。の。家。僕。先。に。取。れ。め。り。て。お。持。て。ま。る。ら。施。恩
 武松。と。逢。へ。酒。店。の。内。へ。入。り。坐。已。に。定。り。し。あ。人。の。家。僕。飲。て。酒。肴。を。具。持
 出。り。武松。を。見。て。云。多。は。小。盃。を。取。り。只。官。一。大。碗。を。飲。て。酌。せ。し。と。別。大。碗。を

近きて一連に三碗と酌乾遂に酒肴と離れ意ざり以時七月の天気も炎
 暑未だ消ずして金風乍ら起りぬ武松施恩と共に衣襟を穿けて又一里程
 往る処に以辺に又一間の酒肴あり武松大に悦んで仕々酒肴を再び
 酒肴と具へ三碗と酌乾忽ち門外にお馳行るふ二三里許中又一間の酒肴
 ありぬ武松おもむく三碗の酒を飲給合十筈も足りて酌し武松大に
 輝輝し一刺施恩小管と云ふは是より後活林にお控候とくの海ありや施恩は
 後活林は以前面の林の内に武松が云既にかくのこゝの小管管の先彼辺に
 候我我自林中に入り蔣門神と名おけし施恩が云我見自往て酌
 るが最可うん素の他西に徘徊して待やさん我見必し彼と逢く觀ありて
 浮らぬと云れ武松が云以丁の案におまゝ只宜しく彼家僕小令じ酒を送
 しめ我我酒を酌ひて兼力と法びて施恩を待てて友人の家僕小令しと

云武松既り酒を用んとめらぬ速うにをせむと怠慢とて言れと施恩
 はひより武松におかれ想られぬ武松是より又五六を前して酒と酌十分輝輝
 とぞちりふらる。

○武松輝々しに蔣門神とす

以時午の刻して天色射に熱くされぬ武松益々輝々し一步のきく一步の
 疾く東に倒れ西に至て漸く林の帯にありしうの彼僕指さして云るの對面
 見えし酒肴乃ち蔣門神が店に武松が云已小待しは汝友人の先達の
 如小躰れ我も蔣門神とすお倒しとて彼にお速馳來れとて強に別れて
 林の内へ入りぬ後背に一人の大漢子槐樹の下小凳と設け乃ち上小坐
 しと素涼居り武松は男子とて形容醜惡小して身材長大之を眼
 星の光りに似て双眉の刷毛の濃がごとく武松心中に想ひるは這大漢子蔣



武松醉
拳
蔣門神



門神ふらりやと暗ふれと寝ひ。又は十歩許りなれ。又彼酒店の前
小玉てひぬとるに酒店の簷の若にツの籠と立旗の上にツの大文字あり
別ち何陽風月と書り。又つあふも二ツの旗と建らるが又ツの大文字あり。たハ酔
裡乾坤大と云文字あり。右ハ壺中日月長とあり。店の内ハ年小の女。覺小
坐して在る。是れ神の神。新とら要する妾之け女ハ系娼妓の流れおて。粧ひ
射に風強之武松是と月を碎眼と睜眼。逕ちに店の内小入て。覺の上小坐
と目只願ふの女と有とら。女急に面と轉て。傍と帯と伴て。見ぬ醉して。病
うらりけ。対席の内。於六七人の家僕。よりなる。その内。一人の酒保。先武松に
問て云。客幾人の酒と活らや。武松云。先二升の酒と昏。それ家僕是と
酔て。彼女に二升の酒と出。是れ別是と携へ出て。云らる。客置く酒と酌。又
武松云。我系来。酒と飲。汝先一碗と昏。で我小入。後一。めと家僕云。

我家の酒を味極めて。美く。一碗の酒と昏。で武松小入。武松是と一口
飲で。云らる。け酒大。忍く。汝速ふれと換て。それ彼僕。武松を碎とら。見て。
飲て。背す。舞の。彼女が。小見て。云らる。彼客。酒忍く。と換んと。と亦も。夫人
宜く。これと替て。与へ。彼女又上酒と昏。出しく。家僕に。酒一。られ。家僕
これと携へ。出て。云らる。客。け酒と。飲。之。是れ。別。美酒と。又。一碗の酒と。昏
一。武松。これと。飲て。云らる。け酒。り。忍く。舞。い。の。美酒と。換て。それ
り。送く。する。と。わ。バ。我。が。春。と。汝。が。太。湯。小。入。んと。家。僕。是。と。酔。て。中。に。
怒り。し。り。武。松。が。碎。と。見。て。事。ひ。と。ら。舞。の。彼。女。が。小。見。て。云。ら。る。彼
客。又。酒。と。換。て。来。れ。と。夫人。出。て。舞。ひ。換。て。与。へ。彼。客。系。来。燗。碎。と。放。
這。根。の。非。乃。と。や。り。ん。是。れ。よ。つ。て。来。も。言。と。事。不。夫。人。も。彼。が。碎。と。願
て。不。く。美酒と。換て。事。事。多。く。ある。は。後。も。ん。彼。必。ず。酒。真。に。あ。り。

此に於てお俵ぬねかの僕忙しく馳て蔣門神小かくと若れ蔣門神大ふ
 跳ひて跳来りし如に武松もや大為の上りて蔣門神と迎へりこの蔣門神の
 系来力量武藝人小勝れし頃日の洒及小違ふれて力大ひ小弱り
 乃れ武松が虎威小歎きしと武松は時蔣門神は武松が碎ちて侮り賜ひ
 と振ひ足と飛せて踢入り多る如に武松多れと遊蔣門神が眉間に拳と
 因りて故玄十歩作退し蔣門神大怒退て近づくんとせし如に武松忙
 しく脚と拳と蔣門神が小腹小踢中第二の脚と飛せて蔣門神が老湯の上
 と踢破りて双子とて歩倒し乃れ蔣門神相撲の子と辱しと働んとし
 乃れ武松が勇力歎きしと武松は邊に胸の上と踏付られ大に驚て放て落し
 とり武松罵ていも汝奸賊いんど擅に人と欺くや汝り命惜くハ我が三件
 小後之と汝ハ我が命と免さんハ我が三件に背ハ我今汝が命と免さん

人ト難し蔣門神が豪傑の三件あり我小従いりんとす小是といひ又
 我始て今に後ふべし武松が汝り果して三件に後ふべくハ我今是といはん
 第一の件ハ汝が家の徳を奪ひて只つも遺さん本主金眼彪施恩小還しておく
 快活林と離れお小ぬれ蔣門神忙しく董云来敢てこれ小後ふべし武松
 又云第二の件ハ我今汝と饒さん自快活林の英雄豪傑より三者悉く
 皆喰書写しく施恩小對して罪と謝せりや蔣門神が云来これ後ふべし
 武松が云第三の件は汝今日家材ホセ施恩小還し今宵の肉に放りぬれ
 汝り私に孟州に養れ居るとわは我喜ひ汝と痛くお為し程は時ハ我
 生れ歩傷らんまは時ハ別性命と害すべし汝一く是つもの小後ておくハ下と
 去去ば即時汝と饒すべしお来んともお違ふことわは即時小汝と踢殺
 さん汝いよく重きを定て是書せよおつ神はいんはもて命と脱れんと欲ひる

由名子速着て云来降で豪傑の命に從ふし形く速小技け起る武松
 是とて呵くと赤笑の遂小蔣門神と社起して面の上と看るに太陽の辺
 痛く赤腫れ血の滾く流れお武松指さして云るは汝未だ我とあつて
 系陽を少して僅に三拳支脚と月ひ大ひる猛虎と云れ赤殺せり況や汝ら如
 弱男と殺えんと何の難きとわん小指一本とて足ぬべし汝速小家奴と曰
 一即時に放れぬれりまを疑するこわくは汝が性命暫時に消ゆべし
 蔣門神は言とて初て武松とせ初り孫招れ入て再三罪と謝にぬれ施恩
 健なる者三二十人と引て跑来り武松と蔣門神小贏とて見て大小取ひ
 後小人数とて左右に立一ふ武松と見て再び蔣門神に對して云るは
 汝が家奴の本を施恩すてに承るに汝向に棄ひたる所の徳物とてく皆還
 すと尚且汝活林の豪傑と一人も遺さぬと云て再び蔣門神を豪

傑先系が店小入て坐一更来自らこれと辨じりて武松は時施恩小對し
 て云はれは我先渠がとせにけり汝も我小使ひ承るも法の人数とて
 毎の酒店の内小馳入る時酒缺の内に入れし女も三人の僕も尚缺の
 内小在て大ひに酒に冷れ若くは武松漢子を下知してこれと引上を
 乃ち又叫つて云るは蔣門神汝早く家奴と施恩小還しと云く尚地の
 豪傑とて呼ぶれ蔣門神とて云て速家内の名を改め又家僕と馳
 て村中の豪傑と呼べれば法の豪傑も悉く来て蔣門神が為に懇懇に
 言と下げ施恩と武松と罪と謝しければ武松うしくと赤笑ひ云るは
 法の店中は一盞と酌をともて酒宴と殺けり大に飲めと傳りり
 以時先武松法奴に對して云るは各店的事を知りあひつらん我を速来
 陽谷縣小て人と殺し遂にけ孟州に流されるに若日人のとてとて

枝活林の遠酒居り。施恩が居りし遠酒の林までに勢ひにまゝして。
 擅に枝活林と初ひて小菅の衣板と奪ひえりし。此由に我今日これ死
 入。復しぬ。法人傑つて我と小菅の家人と必思ふ。我を只天下の悪人
 たり。非たさる。我の神とん老と。おんと欲する。我源く彼と恨きて。
 けの上れに及び。我途中に於ても。お別さまを弱き者と欺き侮非た
 せ。さる。とれ。乃ち劍と抜て。弱き者と助け剛き者と傷。方一彼。命と
 害し。我命と傍に居りて。恨きて。今日も已に。我の神と殺して一言を
 除んと欲し。且列位の恩徳を顧て。持く渠が命と。饒に。今晩子
 持つ神と。他は往し。り。更り。死れて。孟州の地にわ。我。又。子
 して。京陽星の上。と。虎と殺し。る。二。奉。脚。と。強。に。今
 と。害。す。七。法人。の。と。と。と。初。めて。京陽星の上。と。虎と殺し。る。武松

取らる。と。知り。虎。皆。慙。慙。小。云。る。豪。傑。怒。り。と。息。交。乘。亦。罵。り。く。我。の。神
 と。他。に。を。り。と。我。材。勇。く。皆。本。主。小。菅。受。不。還。し。や。七。と。法人。一。日。に
 此。と。肯。ひ。し。六。彼。將。門。神。は。武。松。が。猛。勢。に。怕。ま。殺。て。一。句。の。云。も。云。は。只
 此。と。低。く。居。り。り。以。時。施。恩。の。材。亦。と。點。查。て。此。と。收。め。られ。蔣。門。神。は
 羞。と。懷。て。法人。不。別。れ。遂。に。枝。活。林。と。離。れ。て。行。方。あ。ら。び。り。り。相。成
 松。は。日。法。の。前。中。と。初。め。酒。と。酌。酌。と。晚。客。に。至。て。孟。も。收。り。し。六。皆。と。別
 れ。と。若。て。悔。り。り。武。松。を。夜。燐。碎。して。お。外。相。三。日。辰。の。刻。に。至。て。睡。と。醒
 せり。初。又。老。官。受。と。子。息。施。恩。再。び。枝。活。林。と。霸。と。笑。て。大。小。狂。び。狂。り。く
 言。と。死。せ。て。枝。活。林。小。跳。来。り。乃。ち。武。松。に。對。面。して。流。く。骨。と。射。し。連。日。酒
 居。に。降。参。し。朝。夕。宴。と。没。け。酒。せ。酌。て。自。ら。狂。び。笑。し。不。り。以。時。枝。活。林。の
 武。松。初。て。武。松。が。猛。勢。と。知。り。られ。來。て。武。松。と。仿。ら。る。もの。一。人。も。あ。り。り。り。

施恩しおんより新あらたに店みせを修もとり、再び酒さけを賣うひ乃のちに老らう管くわんをこれとて。
 まことに安やす堵どの思しひを催もよほし、遂ついにに自みづかり安やす平へい寨さい小せう開かいり乃のちに施恩しおん私しに人ひとと馳せて
 蔣しやう門もん神しんが勅ちやく解かいと伺うかがひり乃のちに蔣しやう門もん神しんハ已いに乃のち向むかはるに蔣しやう門もん神しん乃のち落おちめぬと告つげ乃のちに
 施恩しおん孫そん公こうを安やすんじ。自みづかり商しやう賣ばいを法ほふ。亦また方かたよりも形かたち勢せい昌ちやうして毎まい日にち大たい利り
 を得えたり。施恩しおんまきり、武ぶ松しょうが助すけけを感かじ。列ついでち武ぶ松しょうを考かうふと恰さかも父母ふぼ
 の思しひをまきり。

新編水滸画傳卷之六 畢

